

令和3年度
自己点検・評価報告書
富山情報ビジネス専門学校



令和4年8月

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は富山情報ビジネス専門学校の2021年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2022年8月1日

校長

能登 一秀

自己点検・評価責任者

学事部課長 石田 哲也

目次

1. 教育理念・教育目標	P3
2. 基準項目	
基準1 教育理念・目的・人材育成像	P4
基準2 学校運営	P5
基準3 教育活動	P6
基準4 学修成果	P7
基準5 学生支援	P8
基準6 教育環境	P9
基準7 学生募集	P10
基準8 財務	P11
基準9 法令遵守	P12
基準10 社会貢献・地域貢献	P13
基礎資料	P14~17

評価結果

S:達成度がきわめて高い

A:ほぼ達成している

B:達成がやや不十分であり、若干改善を要する(要観察)

C:達成は不十分で改善を要する

D:実施できていない

【urayama philosophy】

建学の精神・教育理念・教育目標・方針・行動規範

【建学の精神】

- 1 質実にして明朗な人格形成
- 1 専門的な学問とその応用を通して社会に貢献する人格形成

【教育理念】

富山情報ビジネス専門学校は、より時代のニーズに合った高度な専門性を高める教育機関であると共に、人間としての素養・教養を高め、個性・自主性を重視し、知行合一を基本に実践躬行を以って、より良き社会の形成に自ら貢献できる人材育成を期する。

【方針】

『地学一体による地域課題解決拠点』としての教育・研究機関を目指す。

【教育目標】

「つくり、つくりかえ、つくる」

- ◆国家資格、検定合格に挑戦する自分づくり
- ◆社会性、創造性、国際性豊かな自分づくり

【行動規範】

私たちは、エルビー羅針盤思考を軸に新しいフィールドへ踏み出す積極的な姿勢を持って行動する。



Learning(よりよく学び)

Behavior(よりよく振る舞い)

Compassion(常に思いやりをもって)

Aspiration(より高い抱負で)

基準 1 教育理念・目的・人材育成像

中項目1-1

教育理念・目的・人材育成像

小項目	指 標	結 果
1-1-1	教育理念・目的・人材育成像は定められているか	A
1-1-2	学校における職業教育の特色は何か	B
1-1-3	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	A

基準1【総括】

urayama philosophy(建学の精神、教育理念、方針、教育目標、行動規範)においては学内で常に共有している。教職員は毎日の朝礼で唱和しており、学生に向けては各教室に掲示している。また、HP、カレッジガイド等により校外へも発信している。

基準1【課題】

非常勤講師には毎年講師会にて学校の取り組みを説明しているが、今後さらに urayama philosophy(建学の精神、教育理念、方針、教育目標、行動規範)や、各学科のおよび人材育成像を共有する機会が足りていない。職業教育の特色については学修成果の可視化、UMP を使用したキャリア支援等の取り組みを学外に多く周知していく必要がある。

基準1【今後の取り組み】

HP 上でもこれまで同様に明示し、学生・保護者へ積極的に浸透を図っていく。会議等において周知を徹底する。非常勤講師に対しても毎年の講師会だけではなく各学科教員と定期的にヒアリングする機会を設け、目指す人材やカリキュラムについて検討していく。また、職業教育の取り組みについても Web を活用し、学生・保護者・関連業界等への浸透を促進していく。

基準 2 学校運営

中項目2-1

運営方針／事業計画／運営組織／人事・給与制度／意思決定システム／情報システム

小項目	指 標	結 果
2-1-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	A
2-1-2	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	A
2-1-3	運営組織や意思決定機能は規則等において明確にされているか	A
2-1-4	人事・給与に関する制度は整備されているか	A
2-1-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	A
2-1-6	情報システム化等による業務の効率化が図れているか	B

基準2【総括】

運営方針、組織図(人事給与含む)においては学園内で共有、明文化されている。
業務効率化においては Google Workspace、勤怠管理システム(Jinjer)によって、コミュニケーションツール、教育支援ツール、情報管理共有ツールが標準化されており、共通の業務基盤ができている。

基準2【課題】

学生の学習状況や面談状況を管理するツールが未確定である。(Notes 代替え)また、文書の電子化が進んでいないため、押印等を伴う手続きが依然として遅く、不確実なままである。校内インフラについての整備がされていない場所があり、情報伝達に不安定さがあるため改善していく必要がある。

基準2【今後の取り組み】

Notes 代替えシステムを早急に検討、普及させていくことが必要である。それらを定着させ、教育活動ならびに業務の効率化と意欲・資質の向上を図る。
これらについては本部と連携して推進していく。

基準 3 教育活動

中項目3-1

目標の設定／教育方法・評価／成績評価・単位認定／資格・免許の指導体制／教員・教員組織

小項目	指 標	結 果
3-1-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	A
3-1-2	学科等のカリキュラムは体系的に構成されているか	B
3-1-3	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	A
3-1-4	資格試験の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	B
3-1-5	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	B

基準3【総括】

「カリキュラム策定方針」のなかに、教育理念と方針に沿った教育目標を軸とした、学校の目指す方向性を明確化し、カリキュラム作成をおこなった。
成績評価・単位認定の基準は、学則、シラバスに明記しており、情報公開もしている。
資格試験の指導体制は、カリキュラムツリーの中で関連する授業科目を示している。

基準3【課題】

毎年見直しをおこなう必要がある。
資格試験の学習進度にばらつきがある中で、学習が遅れている学生に対して、指導を行う体制が出来上がっていない。

基準3【今後の取り組み】

教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会、学生のインターンシップ先、就職先企業などからの意見を次年度カリキュラム作成に反映させる。
資格試験の指導体制においては、授業内はもちろんのこと、学生の学習環境確保・学習支援のための「ラーニングセンター」を設置し補習授業や個別指導を充実させる。

基準 4 学修成果

中項目4-1

就職率／資格・免許の取得率／卒業生の社会的評価

小項目	指 標	結 果
4-1-1	就職率の向上が図られているか	B
4-1-2	資格取得率の向上が図られているか	B
4-1-3	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	B

基準4【総括】

「就職率向上」については、12 月内定率 100%達成という明確な目標に向かって就職支援を行ってきた。しかし 5 月～6 月の自粛期間や休校から就職支援に遅れが生じ、目標達成には至らなかった。卒業生の活躍に関しては、OC にて卒業生の活躍を伝える企画やカレッジガイドの企業インタビューを通して把握している。また、在校生の活躍は新聞や学科からの報告を通して表彰や HP 掲載での情報共有を行っている。卒業生アンケートで新卒採用に置いての重視ポイント上位である「コミュニケーション能力」「協調性」について調査を行った結果、「コミュニケーション能力」「協調性」においては「優秀」「やや優秀」が占める割合は 48%、「普通」が 46%「やや劣る」が 6%「劣る」は 0%であった。チームワークを大切にして輪になじんでいることは、先輩方から業務を学ぶ上でも仕事を長く続ける上でも大変重要な力になるので、引き続き本校の課題解決型授業(PBL)やグループワークなどの授業内容で協調性を伸ばしていくカリキュラムが重要となる。

12 月に 100%の内定率を達成するには、それまでの過程でどれほどのペースで内定を獲得し、進路決定をしていかなければならないかの検討が不十分であった。また、医療事務の学生は早期実務研修の関係や求人が欠員募集によって出されることから、12 月以降の内定になるケースが多い。資格については学生によって能力差が年々広がっている傾向があり、授業だけでなく大幅に追加での対応が必要となる学生がみられる。企業のニーズや卒業生、在校生への評価を把握、共有する体制がない。

基準4【今後の取り組み】

2022 年度は 9 月 80%、10 月 90%、12 月 100%の目標を達成する為、学科ごとに毎月の内定率を定めたので、毎月の目標を達成できるよう意識して就職活動支援を行う。ラーニングセンターを設置し、個別の対応や苦手な部分のある学生を集めての対応を行っていく。企業ニーズ、卒業生の活躍をしっかり把握する為に「企業アンケート」「卒業生アンケート」を実施し、教職員はもちろん在校生にも情報共有する体制を整える。

基準 5 学生支援

中項目5-1

就職等進路／中途退学への対応／学生相談／学校生活／保護者との連携／卒業生・社会人

小項目	指 標	結 果
5-1-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	A
5-1-2	学生相談に関する体制は整備されているか(中途退学含む)	B
5-1-3	学生の生活環境への支援は行われているか	B
5-1-4	保護者と適切に連携しているか	A
5-1-5	卒業生への支援体制はあるか	B

基準5【総括】

「中途退学への対応／学生相談／学校生活／保護者との連携」については、一次対応をアドバイザーとしている。相談内容に応じてアドバイザーが判断し、適した部署への相談を展開している。オリエンテーションの実施、キャリア支援の授業の設置など学校生活に適応できる体制や、学生会活動をはじめとするクラブ活動支援等はできている。学生食堂は運営されていないが、弁当販売をカフェと提携して実施しており、住居の情報提供なども積極的に行っている。駐輪場も整備し、自転車通学の学生に配慮している。「卒業生・社会人」は窓口担当が一次対応をおこない、適切な担当者へ展開している。

基準5【課題】

学生等への対応は実施しているが、対応結果の記録やこれまでの対応履歴を参照するなど、ノウハウを共有する手段がない。学園としてのカウンセラーはいるが、学校に常勤のカウンセラーはおらず、AD任せになっている。トラブルが起きた時に適時専門家に対応してもらえない。
卒業生アンケートを実施し離職率の集計を行っているが母校としてのフォローが足りない。

基準5【今後の取り組み】

何が必要な情報なのかを検討し、それを残し、活用できるツールを検討する必要がある。
学校としてメンタルヘルスケアについてどのように対応していくのか、方針を明確にしておく必要がある。昨年度及び今年度は、コロナ禍のため、入学時(4月)の保護者会を実施しなかったが、次年度は、状況が許せば、入学時の保護者会の実施を検討していく。
卒業生に関しては UMP を通して求人情報を提供し、離職後の就職斡旋までフォローしていく。

基準 6 教育環境

中項目6-1

施設・設備等／学外実習・インターンシップ等／防災・安全管理

小項目	指 標	結 果
6-1-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備しているか	B
6-1-2	学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	B
6-1-3	防災に対する体制は整備しているか	B

基準6【総括】

各学科の特性を配慮した教育機器が整備されている。インターンシップにおいても事前、事後学習を通して学びを深めることはもちろんのこと企業・病院と密に連携を取り、より良い教育を提供できるよう実践している。学生満足度調査の結果、施設(PC・インターネット環境)に関する満足度が低いことから次年度に向けて改善が必要である。(「やや不満」「不満」と回答した学生が全体の29%)

基準6【課題】

防災においては過去に実施していた避難経路の確認及び学生を含めた避難訓練が実施できていない。B 館においては、空調設備の老朽化が進んでおり、部品調達も難しくなるため対応の必要がある。

基準6【今後の取り組み】

教育設備においては学生の主体性を促すための学習スペースとしてラーニングセンターを設置する。また、USP にてランチ提供を行い、学内はもちろんのこと地域の方々にも周知し、「食」を通して地域貢献できる体制を構築していく。

基準 7 学生募集

中項目7-1

学生募集活動／入学選考／学納金

小項目	指 標	結 果
7-1-1	学生募集は適正に行われているか	A
7-1-2	学生募集において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	A
7-1-3	学生納付金は妥当なものになっているか	A

基準7【総括】

入学生目標 265 名(インター、日本語含む)のところ 291 名となった。全学科において前年度を上回る入学生数となったが 2022 年度新設の建築の建築・デザイン学科うち空間情報専攻においては入学生 0 名、公務員学科は 4 名となり、学科でかなりバラつきがみられる結果となった。コロナ感染拡大に伴い、個別対応の希望者も多くさらには 1 回の来校で出願の有無を決断する生徒が非常に多く、個々のニーズに応じて丁寧に対応したことが入学者昨年増につながったと考えられる。また、これまで県外に流出していたかもしれない層もうまく来校→入学につなげることができたのではないかと考える。就職・資格取得については、OC・個別相談等で教員から直接又は企画推進部より説明している。学生納付金については他校との比較では大きな差はなく、妥当であると考ええる。

募集状況が芳しくない学科・専攻毎の戦略計画と取組み。また18才人口が減少する中、いかに他校と差別化するか、早期に来校させるか→出願につなげるかが課題である。
今後、早期囲い込みという点で1、2年生にむけた広報・来校につながる活動も行なう。

基準7【今後の取組み】

OCについては下記の対策を行う

- ・当校の特色を活かした広報戦略の推進
(学修成果の可視化、反転授業、地域連携、非認知能力を育成する専門学校の強み)
- ・コロナ収束が見込めない中、7月、8月の60minOC(個別相談)を2023募集も継続。
- ・コイン企画(来校で1枚、新専攻来校で枚、3枚集めると景品と交換)を今後も続け、口コミでの来校を狙う。

基準 8 財務

中項目8-1

財務基盤／予算・収支計画／監査／財務情報の公開

小項目	指標	結果
8-1-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	B
8-1-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか	B
8-1-3	会計監査が適正に行われているか	A
8-1-4	財務情報公開の体制整備はできているか	B

基準8【総括】

事業活動収支の当年度収支差額は、過去 3 年間の支出超過から脱し収入が上回る結果となった。学生数に応じた予算編成を行い、支出については理事会で承認された予算および事業計画に基づいて執行されており、資産運用規定により安全第一に運用すべき期間および金額に十分な見通しを立て、資金繰りに影響がないよう適切に管理している。教育研究経費は、経常収入に対して37.6%を超えており現時点で教育研究活動の維持・発展への影響はない。

基準8【課題】

収容定員充足率に相応した財務体制を維持するため学科専攻毎に少子化の進展に対応できる財務体質の強化に努め、予算の厳正な執行管理及び健全な予算計画の策定を行う必要がある。定員割れは、最重要課題である。学科専攻ごとの適切な定員管理とそれに見合う経費のバランスが課題である。

基準8【今後の取り組み】

財務については学生募集状況に応じた予算編成を徹底し、収支差額を収入の10%を維持できるよう運用していく。また、各学科のカリキュラムを見直し、非常勤人件費を精査していく。業務に関しては税理士事務所とのヒアリングを通して今後も正確な予算管理を継続していくことはもちろんのこと会計処理方法を変更し、担当者の負担軽減と業務効率化を図っていく。

基準 9 法令遵守

中項目9-1

関係法令、設置基準の遵守／個人情報保護／学校評価／教育情報の公開

小項目	指 標	結 果
9-1-1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A
9-1-2	個人情報に関しその保護のための対策が執られているか	B
9-1-3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	B
9-1-4	自己評価結果を公表しているか	A

基準9【総括】

学校教育法及び専修学校設置基準等、関係法令や学内規定を遵守して学校運営を行っている。法令遵守に関する啓発では、職員に対して、全体会議等で周知徹底を図っている。毎年自己点検・評価を行い、学内で課題を抽出し改善に努めている。その結果を学校関係者評価委員会にて報告し、HPにも掲載している。

基準9【課題】

教職員に対して法令遵守、個人情報の取り扱いに関する OJT を計画、実施していく必要がある。

基準9【今後の取り組み】

法令の遵守については、引き続き適正な運営を図るためにも会議で周知徹底を図り、誤りのないよう努めていく。あわせて、各種法令の閲読をとおして、その内容の吟味と確認を促していく。教職員に対しては「コンプライアンス」感覚を磨くためにも、相互の確認と点検の重要性を認識させ、規定に基づく業務の徹底を図っていく。

基準 10 社会貢献・地域貢献

中項目10-1

社会貢献・地域貢献／ボランティア活動

小項目	指標	結果
10-1-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	B
10-1-2	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	B

基準10【総括】

射水市との包括的連携協定を結び、各専攻の分野において射水市の担当者と学園担当者にてミーティングを重ね、各専攻の分野を活かせるような活動、取り組みを計画している。

また、その他の社会貢献・地域貢献として下記の活動を行った

- ・全学科対象で射水市まちづくり推進委員会に学生委員として数名が参加。
- ・魚津市の「UOZU ゲームプログラム」という研修会のアシスタントとしてゲームクリエイター専攻の学生が参加し、高校生にゲーム製作などを教えた。
- ・モバイルビジネス学科として「いいとこ、いいもの、ギュギュッと！射水」SNS アカウント運営。学生がチームに分かれ、「地元の味」「映えスポット」「子連れスポット」の3つをテーマに取材・投稿を行った。また取材をもとに、射水ベイエリア観光モデルコース動画を制作・発信した。
- ・ホテルブライダル学科として射水市にある「ユニコネルモンド」を舞台とした結婚式企画。

その他にもレストラン、花屋、写真、衣裳店と学生が連携しレストランウェディングをプロデュースした。

- ・日本語学科として戸破・三ヶ地区に絞り、商店や展示館などを訪ね、紹介動画を作成する。また、市役所や郵便局、図書館など様々な手続きの仕方を紹介する動画も作った。成果物として22か所(23の動画)のQRコードを印刷したクリアファイル500部がある。

持続可能な開発目標 SDGs の目標 11「住み続けられる町づくり」を視野にいれ、本校が目指す「地学一体」を推し進めようとして取り組んだ。

各学科の特色を生かし、地域との連携・貢献を推進した。今後も継続的に行うことで、『地学一体』をベースとした学校教育向上を目指す。

ボランティア活動については、継続的なボランティア活動等を積極的に行った学生を表彰する仕組みが

基準10【課題】

ボランティアを奨励・支援する部分が不足しているため、学校としての支援体制を構築していく必要がある。

基準10【今後の取り組み】

重点目標にも反映させた通り、次年度は学生のボランティアや社会活動、ビジネスコンテストへの推奨、支援を行っていく。プロジェクトチームを中心にスキームを完成させ、学生の支援体制を確立させる。射水市包括的連携協定においては2022年度に具体的な活動を実践していくが現状では11の連携事業を検討している。

基礎資料

学生データ(5年分)

入学定員、入学者数、入学定員充足率、収容定員、在籍者数、収容定員充足率(R3.5.1 現在)

学科等の名称	事項	29年度	30年度	R元年度	R2年度	R3年度
高度情報システム学科	入学定員	20	20	—	—	—
	入学者数	7	3	—	—	—
	入学定員充足率(%)	35	15	—	—	—
	収容定員	80	80	60	40	20
	在籍者数	35	27	20	10	4
	収容定員充足率(%)	43.8	33.8	33.3		
情報システム学科	入学定員	20	20	30	30	30
	入学者数	29	25	41	49	67
	入学定員充足率(%)	145	125	136		
	収容定員	40	40	50	60	60
	在籍者数	52	54	64	83	113
	収容定員充足率(%)	130	135	128		
モバイルビジネス学科	入学定員	—	20	20	20	20
	入学者数	—	9	13	12	11
	入学定員充足率(%)	—	45	65		
	収容定員	—	20	40	40	40
	在籍者数	—	9	22	23	21
	収容定員充足率(%)	—	45	55		
幼児教育学科	入学定員	30	30	—	—	—
	入学者数	22	7	—	—	—
	入学定員充足率(%)	73.3	23.3	—	—	—
	収容定員	60	60	30	—	—
	在籍者数	39	24	9	—	—
	収容定員充足率(%)	65	40	30	—	—
デジタルメディア学科	入学定員	20	—	—	—	—
	入学者数	4	—	—	—	—
	入学定員充足率(%)	20	—	—	—	—
	収容定員	40	20	—	—	—
	在籍者数	18	5	—	—	—
	収容定員充足率(%)	45	25	—	—	—
インターネットビジネス学科	入学定員	20	—	—	—	—
	入学者数	4	—	—	—	—
	入学定員充足率(%)	20	—	—	—	—
	収容定員	40	20	—	—	—
	在籍者数	22	4	—	—	—
	収容定員充足率(%)	55	20	—	—	—

ホテル・ブライダル学科	入学定員	25	25	30	30	30
	入学者数	12	4	5	2	8
	入学定員充足率(%)	48	16	16		
	収容定員	50	50	55	60	60
	在籍者数	23	15	9	7	10
	収容定員充足率(%)	46	30	16.4		
医療事務学科	入学定員	30	30	30	30	30
	入学者数	20	23	27	39	25
	入学定員充足率(%)	66.7	76.7	90		
	収容定員	60	80	60	60	60
	在籍者数	51	43	48	65	66
	収容定員充足率(%)	85	71.7	80		
診療情報管理士専攻学科	入学定員	20	20	20	20	20
	入学者数	18	14	14	17	18
	入学定員充足率(%)	90	70	70		
	収容定員	20	20	20	20	20
	在籍者数	18	14	14	17	18
	収容定員充足率(%)	90	70	70		
税理士・会計学科	入学定員	—	—	—	—	—
	入学者数	—	—	—	—	—
	入学定員充足率(%)	—	—	—	—	—
	収容定員	20	—	—	—	—
	在籍者数	5	—	—	—	—
	収容定員充足率(%)	25	—	—	—	—
インターナショナルビジネス学科	入学定員	20	20	20	20	20
	入学者数	20	11	25	19	33
	入学定員充足率(%)	100	55	125		
	収容定員	40	40	40	40	40
	在籍者数	33	26	35	42	50
	収容定員充足率(%)	82.5	65	87.5		
日本語学科	入学定員	75	75	75	70	70
	入学者数	70	55	75	32	41
	入学定員充足率(%)	93.3	73.3	100		
	収容定員	100	120	120	120	
	在籍者数	94	76	112	103	67
	収容定員充足率(%)	94	63.3	93.3		

② 卒業生数(人)

区分	29年度	30年度	R元年度	R2年度	R3年度
高度情報システム学科	9	6	8	6	4
情報システム学科	21	29	18	40	43
国際幼児教育学科	—	—	—	—	—
幼児教育学科	17	14	9	—	—
モバイルビジネス学科	—	—	9	11	7
デジタルメディア学科	13	5	—	—	—
インターネットビジネス学科	14	3	—	—	—
ホテル・ブライダル学科	11	11	4	5	2
医療事務学科	30	20	20	25	39
診療情報管理士専攻学科	18	14	14	17	18
税理士・会計学科	5	—	—	—	—
国際ビジネス学科	7	15	6	19	17
日本語学科	51	78	33	74	24
計	196	195	121		

③ 退学者数(人)

区分	29年度	30年度	R元年度	R2年度	R3年度
高度情報システム学科	3	2	1	0	0
情報システム学科	1	—	2	3	7
モバイルビジネス学科	—	—	2	2	0
幼児教育学科	6	1	0	—	—
デジタルメディア学科	—	—	—	—	—
インターネットビジネス学科	4	1	—	—	—
ホテル・ブライダル学科	1	—	0	0	0
医療事務学科	1	2	2	0	1
診療情報管理士専攻学科	0	0	0	0	0
税理士・会計学科	0	—	—	—	—
国際ビジネス学科	3	—	5	6	1
日本語学科	11	5	7	3	0
計	30	11	19	14	9
退学率	7.69%	3.27%	6.55	3.9%	2.2%

④ 休学者数(人)

区分	29年度	30年度	R元年度	R2年度	R3年度
高度情報システム学科	2	2	3	2	0
情報システム学科	0	3	1	2	1
モバイルビジネス学科	—	—	0	1	1
幼児教育学科	0	1	0	—	0
デジタルメディア学科	0	—	—	—	—
インターネットビジネス学科	1	—	—	—	—
ホテル・ブライダル学科	0	0	0	0	1
医療事務学科	0	3	1	1	0
診療情報管理士専攻学科	0	0	0	0	0
税理士・会計学科	0	—	—	—	—
国際ビジネス学科	0	0	0	0	1
日本語学科	0	0	0	0	0
計	3	9	5	6	3
休学率	0.77%	2.6%	1.72	1.7%	0.9%

⑤ 就職者数(人)

区分	29年度	30年度	R元年度	R2年度	R3年度
高度情報システム学科	9	5	8	6	4
情報システム学科	21	27	12	34	36
モバイルビジネス学科	-	-	9	10	6
幼児教育学科	16	14	7	-	-
デジタルメディア学科	13	5	-	-	-
インターネットビジネス学科	14	3	-	-	-
ホテル・ブライダル学科	11	11	4	5	1
医療事務学科	15	6	3	5	14
診療情報管理士専攻学科	18	13	14	15	17
税理士・会計学科	5	-	-	-	-
国際ビジネス学科	5	12	3	16	15
日本語学科	1	0	3	2	4
計	128	96	63	93	93
希望者数	129	98	63		
就職率	99.5%	97.9%	100%		

※就職率=就職内定者数/就職希望